

06/06/14  
山陽新聞

back

## 伝統芸能 肌で体感

福山・鞆中  
1年生 能の基本を学ぶ

福山市鞆町後地の鞆中学校の一年生が十三日、喜多流シテ方の大島衣恵さんから能の手ほどきを受け、立ち居振る舞いを学んだ。総合学習の一環で、約五カ月間勉強し、十一月に国重文・沼名前神社能舞台で「仕舞」を披露する。

鞆小六年生として二度「連吟」を披露したことがある生徒二十一人が、昨年に続き挑戦。今回は、鶴と亀の舞を見た皇帝が、一緒に舞を披露し、

民の繁栄を願う「月宮殿」が演目。

この日は、衣恵さんと妹の文恵さんが講師として来校し、舞の基本となる型を指導。生徒は右腕を肩の高さまで真っ直ぐ上げる「シカケ」、そこから両腕を左右に開く「ヒラキ」などを教わり、伝統芸能を肌で体感していた。

井上詩織さん（二）は「衣恵さん、文恵さんのように美しく踊れるよう頑張りたい」と話していた。（安河内誠）



能の立ち居振る舞いを学ぶ鞆中学校生徒